

科目名	看護学概論	時期		時間	単位
担当教員	副学校長・非常勤講師	1年次	前期	30時間	1単位
学習目標	1 看護の概念を学び、看護の本質と役割を理解する 2 看護の対象と健康の概念について学ぶ 3 看護における倫理について学ぶ 4 看護提供のしくみと看護活動領域を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1	医学概論	1 近年の医療を取り巻く状況の変化	講義 (非常勤講師)
2～3	看護とは	1 看護の本質 2 看護の役割と機能 3 看護の継続性と情報交換	講義 (副学校長)
4～5	看護の対象の理解	1 人間のこころとからだ 2 生涯発達しつづける存在としての人間 3 人間の暮らしの理解	講義 (副学校長)
6～7	国民の健康状態・生活の全体像の把握	1 健康のとらえ方 2 国民の健康の全体像 3 国民のライフサイクルと健康・生活 4 現代の日本人の健康と生活を考える	講義 (副学校長)
8～9	看護の提供者	1 職業としての看護 2 看護師の資格と養成にかかわる制度 3 看護職者の就業状況と継続教育 4 看護職の養成制度の課題	講義 (副学校長)
10～11	看護における倫理	1 現代社会と倫理 2 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 ハンセン氏病・B型肝炎 等 3 看護実践における倫理問題への取り組み	講義 (副学校長)
12～13	看護の提供の仕組み	1 サービスとしての看護 2 看護サービスの提供の場 3 看護をめぐる制度と政策 4 看護サービスの管理 5 医療安全と医療の質保証	講義 (副学校長)
14	広がる看護の活動領域	1 国際看護 2 災害時における看護	講義 (副学校長)
15	試験 (90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [1] 看護学概論	茂野香おる 他	医学書院
	看護者の基本的責務 定義・概念／基本法／倫理	日本看護協会出版会	
参考図書・資料等	DVD 看護教育概論 日本の看護 GHQ による看護改革 DVD 目で見る国際看護 国際看護の現状		
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習、出席状況などから総合的に判断する		

科目名	看護理論	時期		時間	単位
担当教員	副学校長	1年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 看護理論が看護実践と研究に果たす役割を学ぶ 2 F. ナイチンゲールおよびV. ヘンダーソンの看護理論の概要を説明できる 3 各看護理論の特徴を学ぶ				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1	看護理論とは	1 看護理論とは何か 2 看護理論の分類 3 看護理論の変遷 4 看護理論が看護実践と研究に果たす役割	講義・演習
2～5	F. ナイチンゲール	1 人間の健康と環境 2 病気及び病人 3 観察について 4 看護について 5 看護する人に求める事柄	講義・演習
6～9	V. ヘンダーソン	1 人間とは、環境とは、健康とは、看護とは 2 常在条件と病理的状态 3 基本的看護の構成要素	講義・演習
10～12	看護理論家	1 理論家の背景・理論の源泉となったもの、 主要概念・実践への適応等 (1) ヒルデガード・E・ペプロウ (2) ドロセア・E・オレム (3) シスター・カリスタ・ロイ (4) パトリシア・ベナー	講義・演習
13～14	中範囲理論	1 中範囲理論とは 2 看護における中範囲理論とは 3 危機・ストレス・不確かさの認知や対処に関する理論 4 行動変容、行動強化に関する理論	講義・演習
15	試験 (90分)		

使用テキスト	看護覚え書 －看護であること看護でないこと－	F. ナイチンゲール 湯槇 ます 他 訳	現代社
	看護の基本となるもの	V. ヘンダーソン 湯槇 ます 他 訳	日本看護協会 出版社
	ケースを通してやさしく学ぶ看護理論 改訂4版	黒田 裕子	日総研出版
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学 [1]	茂野香おる	医学書院
	事例を通してやさしく学ぶ中範囲理論入門	佐藤 栄子	日総研出版
参考図書・資料等	DVD 看護論シリーズ 1. バージニア・ヘンダーソン DVD 看護論シリーズ 8. フローレンス・ナイチンゲール		
評価方法	筆記試験、レポート、演習参加状況、出席状況などから総合的に判断する。		

科目名	臨床看護総論	時期	30 時間	1 単位
担当教員	専任教員・非常勤講師 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1 年次 後期	30 時間	1 単位
学習目標	1 健康障害を持つ対象の特徴を理解し生活の質を維持・向上する看護の実践方法を修得する 2 主要症状を示す対象の特徴を理解し看護の実践方法を修得する			

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1～2	健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護	1 ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 2 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 3 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ	講義 (専任教員)
3～5	健康状態の経過に基づく看護	1 健康状態と看護 2 健康の維持・増進を旨とする看護 3 急性期における看護 4 慢性期における看護 5 リハビリテーション期における看護 6 終末期における看護	講義 (専任教員)
6～9	主要な症状を示す対象者への看護	1 呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 2 循環に関連する症状を示す対象者への看護 3 栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護 4 排泄に関連する症状を示す対象者への看護 5 活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護 6 認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 7 コーピングに関連する症状を示す対象者への看護 8 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 9 安楽に関連する症状を示す患者への看護	講義 (専任教員)
10～12	治療・処置を受ける対象者の看護	1 輸液療法を受ける対象者の看護 2 化学療法を受ける対象者への看護 3 放射線治療を受ける対象者への看護 4 手術療法を受ける対象者への看護 5 集中治療を受ける対象者への看護 6 身体侵襲を伴う検査・治療を受ける対象者への看護 (1) 血液検査 (2) 穿刺液検査 (3) 内視鏡検査 (4) X線検査 (5) CT検査 (6) MRI検査 (7) IVR・血管造影等	講義 (専任教員)
13～14	医療機器の原理と実際	1 医療機器を安全に使うために (1) 医療ガス 2 測定用医療機器の原理と実際 (1) 心電図 (2) 血圧計 (3) パルスオキシメータ 3 治療用医療機器の原理と実際 (1) 人工呼吸器 (2) 吸引装置 (3) 吸入療法機器 (4) 輸液ポンプ (5) 除細動器 4 医療機器使用時の看護	講義 (非常勤講師)
15	試験 (90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[4] 臨床看護総論	香春 和永	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学	青木 学 等	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床検査	奈良 信雄 等	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験 課題レポート		

科目名	看護の基本技術	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	前期	30時間	1単位
学習目標	1 看護技術の構成要素及び原理原則を理解し、看護技術を実践する方法を修得する 2 人間関係を形成するためのコミュニケーション技術を習得する 3 看護記録の意義と留意事項を理解する 4 報告の必要性と方法を理解する 5 看護における学習支援の方法を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1～3	コミュニケーション	1 看護技術の定義と看護師に求められること 2 看護技術の基本原則 3 看護におけるコミュニケーションの必要性 4 看護におけるコミュニケーションの過程 5 コミュニケーションに障害がある対象への効果的な対応 6 対象を支援するコミュニケーション (1) 共感的態度 (2) アサーティブネス	講義・演習
4～8	看護記録	1 看護記録の法的位置づけ 2 看護記録の規定 3 看護記録の意義・目的と機能 4 看護記録の構成（SOAP、フローシート等）と方法 5 記載・管理における留意点 (1) 記録管理と情報開示 (2) 守秘義務とセキュリティの確保	講義・演習
9～12	報告の必要性と方法	1 看護における報告の必要性 2 看護における報告の種類 3 報告の必要な場面	講義・演習
13～14	学習支援	1 看護における学習支援 2 対象の健康状態に合わせた学習支援の方法	講義
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ	有田 清子 他	医学書院
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他	医学書院
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験 技術試験		

科目名	フィジカルアセスメント	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	前期 後期	30時間	1単位
学習目標	1 フィジカルアセスメントの目的と看護の役割が理解できる 2 バイタルサイン、身体測定、系統的フィジカルアセスメントの技術が習得できる				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1～2	ヘルスアセスメント	1 ヘルスアセスメントとは 2 フィジカルアセスメントとは 3 フィジカルアセスメントにおける基本技術 (1) 問診 (2) 視診 (3) 触診 (4) 聴診 (5) 打診	講義
3～8	一般状態のアセスメント： バイタルサイン	1 バイタルサインの観察とアセスメント (1) 体温 (2) 脈拍 (3) 呼吸 (4) 血圧 (5) 意識	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 111. バイタルサインの測定（技術試験）112. 身体計測
	一般状態のアセスメント： 身体計測	2 身体計測の留意事項と実際 (1) 身長 (2) 体重 (3) 腹囲 (4) 皮下脂肪厚	
9～14	身体機能別のアセスメント	1 呼吸系と循環系のフィジカルアセスメントの進めかた 2 呼吸系のフィジカルアセスメントの進めかた 3 循環系のフィジカルアセスメントの進めかた 4 消化系のフィジカルアセスメント 5 感覚系のフィジカルアセスメント 6 運動系フィジカルアセスメント 7 中枢神経系フィジカルアセスメント	講義・演習 〈レベルⅣ〉 109. 意識レベルの把握
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ	有田 清子 他	医学書院
	フィジカルアセスメントガイドブック第2版	山内豊明	医学書院
参考図書・資料等	DVD 山内豊明教授のフィジカルアセスメント 第4巻 呼吸器のアセスメント② DVD 山内豊明教授のフィジカルアセスメント 第5巻 循環器のアセスメント DVD 山内豊明教授のフィジカルアセスメント 第6巻 消化機能のアセスメント		
評価方法	筆記試験・技術試験・レポート		

科目名	看護過程	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	後期	30時間	1単位
学習目標	看護過程の構成要素と展開方法の実際がわかる。				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1	看護過程とは	1 看護過程の歴史的概念 2 看護過程の必要性 3 問題解決技法と看護過程 4 看護過程の特性 5 看護過程の構成要素	講義
2～4	データ収集 アセスメント	1 看護アセスメントの意義 2 情報収集とは 3 情報収集の方法、情報源 4 ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組み 5 情報分析 6 アセスメントの進め方	講義・演習 【個人課題】 情報整理と分析 【演習】 ・事例1のパターン毎の分析・関連図 ・アセスメントと看護問題の明確化（グループ検討・発表）
5～6	全体像	1 全体像の意味 2 全体像演習	
7～8	看護問題の明確化	1 看護問題と看護診断 2 看護問題・共同問題・医学診断 3 重点アセスメントと看護診断の明確化 4 優先順位の決定	
9～10	計画立案	1 看護目標の設定 2 計画の分類 3 計画立案の実際	講義・演習 【演習】 ・事例1の計画立案（グループ検討・発表）
11～12	評価	1 看護における評価 2 目標達成度の測定 3 目標達成に影響を及ぼす変数 4 計画の変更	
13～14	事例を用いた看護過程の展開	1 ペーパーペイシエント演習	講義・演習 【個人課題】 ・事例2の看護過程の展開
15	試験(90分)		

使用テキスト	実践に役立つ看護過程と看護診断 第2版 -ヘンダーソン・ゴードンのデータベースに基づく事例展開-	三上 れつ	ヌーベルヒロカワ
	ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践 第3版 看護アセスメント -同一事例による比較-	渡邊 トシ子	ヌーベルヒロカワ
	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ	有田 清子 他	医学書院
	看護過程に沿った対症看護 第4版 -病態生理と看護のポイント-	高木 永子 他	学研メディカル秀潤社
参考図書・資料等			
評価方法	筆記試験、レポート、演習への取り組みを総合的に評価する		

科目名	生活の援助技術 I	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	前期	30時間	1単位
学習目標	対象の生活を整えるための病床環境および活動と休息の援助技術を修得する				

授 業 計 画					
回数	項目	内 容		方法	
1～8	病床環境	1 「環境とは」とその分類 2 健康生活における環境調整の重要性 3 望ましい生活環境 (1) 清潔と整頓 (2) 気温・気湿・気流 (3) 室内空気 (4) 採光 (5) 物音 (6) 感覚的満足 (7) プライバシー 4 病床の整備 (1) 病床の構成 (2) ベッドメイキング (3) 毎日の病床環境 (4) シーツ交換		講義・演習 <b>【演習】</b> 〈レベルI〉 1. 病床環境の調整 2. ベッドメイキング 〈レベルII〉 3. リネン交換	
9～14	活動と休息	1 看護におけるボディメカニクスの必要性 2 ボディメカニクスの実践 3 活動と運動、休息と睡眠の意義 4 体位変換の意義と同一体位による障害 5 体位変換、移動の援助方法		講義・演習 <b>【演習】</b> 〈レベルI〉 27. 車椅子移送 28. 歩行・移動介助 〈レベルII〉 32. 臥床患者の体位変換 33. 37. 移乗(ベッドから車椅子、 ベッドからストレッチャー) 38. ストレッチャー移送	
15	試験(90分)				

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II	有田 清子 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践!看護技術シリーズ 日常生活の援助技術編 Vol.1 ベッドメイキング		
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、技術試験などから総合的に評価する		

科目名	生活の援助技術Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	前期	30時間	1単位
学習目標	1 対象の生活を整えるための食生活および排泄の援助技術を修得する 2 罨法の種類と罨法が身体に及ぼす影響を理解する				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1～5	栄養と食事	1 人間にとっての「食べる」ことの意義 2 食習慣の成り立ちと食の安全 （1）食事と日常生活 （2）食の安全（社会の動向） 3 食欲と摂食行動 （1）食欲の調節：食欲を左右する因子 （2）消化吸収及び排泄の機構 3 食事の援助方法 （1）健康な食習慣と食事管理 （2）食欲増進のための援助 （3）食事介助（誤嚥予防含む）	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 4. 食事介助 5. 食事摂取状況のアセスメント
6～13	排泄	1 排泄の意義 2 排泄の生理 3 排泄に関するアセスメント 4 排泄の援助方法 （1）健康的で自然な排便習慣をつけるための援助 （2）床上での排尿困難が生じた場合 （3）便器・尿器を使用する患者の援助 （4）おむつを使用する患者への援助 （5）排便困難な患者への援助 （6）摘便	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 14. 15. 16. 18. 19 排泄援助（便器介助、尿器介助、おむつ交換） マッサージ 〈レベルⅢ〉 23. グリセリン浣腸 〈レベルⅣ〉 25. 摘便
14	罨法	1 罨法の意義 2 罨法の援助方法 （1）温罨法 （2）冷罨法（氷枕）	講義・演習 【演習】 〈レベルⅠ〉 57. 温罨法・冷罨法 58. 体温調節の援助
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践！看護技術シリーズ 日常生活の援助技術編 Vol.4 食事の介助 DVD 実践！看護技術シリーズ 排泄の援助技術編 Vol.1 排尿・排便の援助		
評価方法	筆記試験、演習への取り組み、レポートから総合的に評価する 基本的な摘便の方法、実施上の留意点が見える(レベルⅣ)		

科目名	生活の援助技術Ⅲ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	前期	30時間	1単位
学習目標	対象の生活を整えるための身体の清潔および衣生活の援助技術を修得する				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1～10	身体の清潔	1 身体の清潔の意義 2 清潔援助の基礎知識 (1) 皮膚粘膜の構造と機能 (2) 清潔援助の効果 3 対象の状態にあった援助方法の選択 (1) アセスメント (2) 援助方法の決定 (3) 援助の留意点 4 援助方法 (1) 入浴、シャワー浴 (2) 清拭 (3) 洗髪 (4) 手浴、足浴 (5) 陰部洗浄 (6) 口腔ケア (7) 整容(洗面、眼・耳・鼻・爪・髭剃り)	講義・演習 <b>【演習】</b> 〈レベルⅠ〉 42. 足浴・手浴 46. 身だしなみを整えるための援助(整容) 〈レベルⅡ〉 41. 48. 入浴介助 49. 陰部洗浄 43. 50. 清拭 44. 51. 洗髪 45. 52. 口腔ケア
11～14	衣生活	1 衣類を用いる定義 2 衣生活援助の基礎知識 3 対象の状態にあった援助方法の選択 4 援助方法 (1) 寝衣の選択 (2) 寝衣交換	講義・演習 <b>【演習】</b> 〈レベルⅠ〉 47. 54. 寝衣交換
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版	任 和子 他	医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践!看護技術シリーズ 清潔の援助編 Vol.2 全身清拭・陰部洗浄、Vol.3 洗髪、Vol.4 部分浴、Vol.5 口腔ケア		
	DVD 実践!看護技術シリーズ 日常生活援助 Vol.2 リネン・寝衣の交換		
評価方法	筆記試験、レポート、演習への取り組みから総合的に評価する		

科目名	診療の補助技術Ⅰ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 与薬の看護技術を習得する 2 輸血の看護技術を習得する				

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1～12	与薬	1 薬事法と日本薬局方 (1) 薬物の管理 (2) 与薬の経路 (3) 誤薬防止の与薬方法 2 経口方法 (1) 内服 (2) 口腔内与薬法 3 注射法 (1) 薬液の吸い上げ(アンプル、バイアル) (2) 注射の実施方法 ア 注射の安全・安楽 イ 皮内注射、皮下注射、筋肉内注射 ウ 静脈内注射 (ア) ワンショット (イ) 点滴静脈内注射 4 その他の与薬法 (1) 経皮的与薬 (2) 直腸内与薬 (3) 点眼 (4) 点鼻 (5) 吸入	講義・演習 <b>【演習】</b> 〈レベルⅡ〉 78. 79. 80. 与薬前後の観察(経口・経皮・直腸内・外用剤) 138. 誤薬防止 81. 点滴静脈内注射(観察) 〈レベルⅢ〉 82. 直腸内与薬 83. 86. 点滴静脈内注射(実施、管理) 84. 皮下注射 85. 筋肉内注射 〈レベルⅣ〉 88. 経口与薬方法 89. 経皮薬・外用薬与薬方法 94. 95. 96. 静脈内注射(実施方法・危険性・異常な状態) 91. 92. 93. 97 皮内・皮下・筋肉内・抗生剤注射後の観察 薬剤(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤)の管理方法〈レベルⅢ〉
13～14	輸血	1 輸血療法の基礎知識 2 輸血療法の方法	講義 〈レベルⅣ〉 102. 輸血管理(輸血前・中・後の観察)
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術	任 和子 他	医学書院
	医療安全ワークブック 第3版	川村 治子	医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践!看護技術シリーズ 診療に係わる技術編 Vol 3 与薬、Vol 4 注射、Vol 5 輸液、Vol 7 輸血		
評価方法	筆記試験、課題レポート(経口薬の種類と服薬方法がわかる、経皮・外用薬の与薬方法がわかる、静脈内注射実施中の異常な状態がわかる、皮内注射後の観察点がわかる、静脈注射の実施方法がわかる、皮下注射後の観察点がわかる、筋肉内注射後の観察点がわかる、毒薬・劇薬・麻薬の管理方法がわかる)		

科目名	診療の補助技術Ⅱ	時期		時間	単位
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う	1年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 感染防止の看護技術を修得する 2 創傷管理の看護技術を修得する				

授 業 計 画			
回数	項目	内容	方法
1～7	感染防止の技術	1 感染防止の基礎知識 2 標準予防策 3 感染経路別予防策 4 洗浄・消毒・滅菌 5 無菌操作と滅菌物の取り扱い 6 感染性廃棄物の取り扱い 7 針刺し防止策 8 無菌操作の技術 (1) 膀胱留置カテーテル (2) 導尿	講義・演習 【演習】〈レベルⅠ〉 17. 膀胱留置カテーテル挿入 中の患者の観察 125. スタンダード・プリコーション〈レベルⅡ〉 126. 個人防護具の装着 127. 128. 感染性廃棄物の取り扱い 129. 無菌操作（ドレーン挿入部も含む） 130. 針刺し事故防止の対策〈レベルⅣ〉 131. 針刺し事故後の感染防止の方法
8～14	創傷管理技術	1 創傷管理の目的、方法、適応 2 創傷の処置方法 3 包帯法の基礎知識 4 包帯の技術 (1) 巻軸包帯の巻き方の種類 (2) 三角巾による提肘固定 (3) 止血法	講義・演習 〈レベルⅢ〉 75. 包帯法の実施 〈レベルⅣ〉 110. 止血法の原理がわかる
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ	有田 清子	医学書院
	基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	他	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版	任 和子 他	医学書院
	医療安全ワークブック 第3版	川村 治子	医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践！看護技術シリーズ 感染予防編 Vol.1 スタンダード・プリコーション、Vol.2 消毒・滅菌と無菌操作 排泄の援助技術編 Vol.3 導尿・膀胱留置カテーテル		
評価方法	創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる（レベルⅣ） 針刺し事故後の感染予防の方法がわかる（レベルⅣ） 筆記試験、課題レポート、技術試験：無菌操作		

科目名	診療の補助技術Ⅲ		時期	時間	単位	
担当教員	専任教員 専任教員は看護師として実務経験が5年以上あり、その経験を活かして授業を行う		1年次	後期	30時間	1単位
学習目標	1 診察・治療に伴う看護技術を修得する 2 呼吸・循環を整える看護技術を修得する					

授 業 計 画			
回数	項目	内 容	方法
1～7	診察・検査に伴う看護技術	1 診察の介助 2 診察器具 3 検査の目的と検査時における看護の役割 4 検体や器具の取り扱い 5 対象者の心理面への援助 6 安全と安楽 7 検査の方法と種類 (1) X線撮影 (2) コンピューター断層撮影 (3) 磁気共鳴映像 (4) 内視鏡検査 (5) 超音波 (6) 肺機能 (7) 核医学 8 検体の採取と取扱い (1) 尿検査 (2) 便検査 (3) 喀痰検査 (4) 穿刺の介助 (5) 血液検査(採血) 9 検査値の読み方 血液検査	講義・演習 <b>【演習】</b> <レベルⅡ> ・116. 尿検体 <レベルⅢ> 122. 静脈血採血の実施 <レベルⅣ> 123. 血液検体の取り扱い方がわかる 124. 検査の目的・方法 検・査が生体に及ぼす影響がわかる
8～14	呼吸・循環を整える技術	1 酸素吸入療法 (1) 目的 (2) 酸素投与器具とその特徴 2 吸引の技術 (1) 目的 (2) 一時的吸引：口腔・鼻腔 3 吸入の技術 (1) 目的と種類 (2) ネブライザー	講義・演習 <b>【演習】</b> <レベルⅠ> 56. 酸素吸入療法の観察 (レベルⅡ) 61. 気道内加湿の実施 <レベルⅢ> 62. 口腔内・鼻腔内吸引の実施 64. 体位ドレナージの実施 65. 酸素ボンベの操作 <レベルⅣ> 67. 酸素の管理方法
15	試験(90分)		

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ	有田 清子 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床検査	奈良 信雄 他	医学書院
	系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学	青木 学 他	医学書院
	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術	任 和子 他	医学書院
	医療安全ワークブック 第3版	川村 治子	医学書院
参考図書・資料等	DVD 実践！看護技術シリーズ診療に係わる技術編 Vol.1 検査時の看護Ⅰ、Vol.2 検査時の看護Ⅱ DVD 看護のための酸素吸入療法 Vol.2 酸素吸入療法の実際		
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習参加状況、出席状況などから総合的に判断する		

科目名	基礎看護学実習 3単位 135時間
-----	-------------------

## I 基礎看護学実習 I (1単位 45時間)

実習目的	入院している患者を理解し、その人に必要な日常生活援助を実施するための基礎的な能力を修得する	
実習目標	基礎看護学実習 I-①	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 患者の入院療養環境を理解する</li> <li>2 患者の健康障害が日常生活に及ぼす影響を理解する</li> <li>3 看護師のサポートを受けながら患者とコミュニケーションがとれる</li> </ol>
	基礎看護学実習 I-②	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護の機能と役割を理解する</li> <li>2 患者の日常生活行動が観察できる</li> <li>3 患者のニーズと個別性に応じた日常生活援助の必要性を理解する</li> <li>4 患者に応じた日常生活援助を安全・安楽に実施できる</li> <li>5 実習を通して看護師を目指す上での自己の課題を考察する</li> </ol>

## II 基礎看護学実習 II (2単位 90時間)

実習目的	健康上の課題をもつ対象に既修の知識・技術と看護過程の技法を用い、個別的な看護を実践するための基礎的な能力を修得する
実習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 積極的にコミュニケーションをとり、対象との良好な人間関係を築く</li> <li>2 対象の機能的健康パターンに基づくアセスメントを踏まえ、看護過程を展開する</li> <li>3 対象の看護問題を明確化する</li> <li>4 対象の安楽と自立を考え、安全に実施できる援助を計画し、実践する</li> <li>5 看護実践を通して自己を振り返り、看護師になる人としての覚悟を決める</li> </ol>